



# KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊 / 数学教育 / 渡辺 崇人

2023 年 11 月 3 日 Vol.4

今日は、自分の住んでいる Karibib (カリビブ) という町について簡単に紹介します。

# KARIBIB



写真 1 : Karibib の鉱山



図 1 : Karibib の地図

Karibib は人口が 5,132 人 (2011 年時点。Karibib Town Profile より) で、金や大理石が取れる鉱山の町です (写真 1)。そのため、鉱山労働者をよく町中で見かけます。また近くに Karibib Air Force Base という空軍の基地もあり、たまに軍服を着た方も町中で見かけます。そのため、校長曰くこの町の人口は増加傾向にあるようです。現に自分の配属先も 2017 年に 290 名だった生徒数は 2023 年現在で 460 名と約 1.5 倍に増加しました。おそらく今後も増加の一途を辿るのではないかと予想されます。

一方で、これは所感ですが、人口に対する求人数は不足しており、すべての人が定職に就いているわけではありません。現に初対面の子どもに限らず、一部の大人でさえ二言目には “I am hungry.(お腹空いたよ。)” “Give me foods.(食べ物ちょうだい。)” と発し、貧富の差を目の当たりにします。ナミビアはその差が特に激しいと言われますが、このような現実直面する度、今後の自分の立ち振る舞いについて深く考えさせられます。

また、この町は各主要都市への幹線道路が接続している関係でジャンクションとしての役割が大きく、特に図1にある Karibib Engen というガソリンスタンドからは

方角	町の名称	概要
北	オマルル、オチワロンゴ	それぞれ同期ボランティアが赴任している綺麗な町
西	スワ Coppumnt	多くの地元の人がオススメする、砂丘も見られるナミビアの大都市。評判通りの綺麗さです。いつか紹介します。
南	ウィントフック	首都でナミビア最大の都市

と上の表に示すように各都市間のタクシーやシャトルバスに乗車することができます。ちなみに、ナミビアでは都市間の移動を公共の交通機関で行う場合、基本的にタクシーかシャトルバスを利用することとなります。一応、鉄道もありますが（図1の東西を結ぶ幹線道路の北側にうっすらと見える、道路にやや並行している線が線路です。本ページ下部の写真2参照。）乗客を運ぶためではなく、鉱山で取れた資源等の貨物輸送用です。タクシーは一度に多くの乗客を運べることから、定員いっぱいで行うことがメジャーで、場合によっては定員が埋まるまで出発前に何時間も待たされることもあります（JICA ボランティアは安全上、乗合タクシーに乗車することは禁止されており、タクシー利用の場合は貸切にする必要があります）。ここのタクシー料金は基本的には乗車人数×移動距離で決まります（各都市までの相場はあるようです）。ただ、日本のようにメーターできちんと決まる訳ではないため、交渉すれば相場より少し値下げしてくれるドライバーもいます。

近隣の様子ですが、幸いにも自宅から徒歩5分ほどの場所に配属先が、徒歩10分圏内にスーパーが2つ存在するため、自宅の周辺でほぼ生活が完結します。（これは vol. 6 で詳しく紹介しますが）最近では仕事が増えてきている関係で時間を節約できる点では非常に助かっています。

また、道を挟んで向かいに Halfway Overnight というゲストハウスがあります。1泊の値段は素泊まりで N\$650（≒¥5,200）、朝食付きで N\$750（≒¥6,000、写真3、4参照）と少し割高ですが、その分施設は綺麗で、Netflix、U-NEXT、Hulu、YouTube など色々なコンテンツを視聴できる点では、他でなかなか見ない場所かもしれません。優しい姉妹がスタッフをしており、不定期ですが「How are you, sir?（先生、元気?）」と連絡をくれます。また、N\$80（≒¥640）で洗濯機を使わせてくれます。余談ですが海沿いの都市でないとなかなか魚が手に入らないため、差し入れに魚をもっていくと非常に喜んでくれます(^\_^)。



写真2：貨物鉄道



写真3(左、English 風)と写真4(右、マフィン)：Halfway Overnight の朝食（これ以外にもヴィーガン用など全部で6種類ほどの中から選べます。）

最後に、下の図2右方に見える緑色の敷地が Usab Stadium (ウサブ・スタジアム) or Usab Sports Field といい、地区のスポーツイベントがあるとここが会場になります。自宅からは歩いて 20 分ほどの距離です。ここにはマラソン大会やスポーツフェスティバル(これらも書くことが多いため、別機会に紹介します)でお邪魔しました。

また、天然芝の大きなサッカーコートがあるため、平日に地元の人がスパイクを履いてサッカーの練習をしています。さすがにスパイクは持ってきていないため、このコートでの練習には参加できていませんが、2年間のどこかでは参加してみたいですね。写真は子ども達がサッカーをしている様子です。



図2：Karibib の地図と Usab Stadium

写真5：小高い丘の上から撮影した Karibib

### ちょこっと余談

図2にも記載されていますが、ナミビアのほとんどの都市には **Town (タウン)** と **Location (ロケーション)** という2地区が存在します。それぞれは

**Town**・・・スーパーや警察署等、町の主な機能が集結している地区。

**Location**・・・住居中心の地区。電気、水道が通っていない住居も珍しくない。

です。この町は概ね東西に伸びる幹線道路を境に南側が **Town**、北側が **Location** になっています。住んでいる人は **Town** 側には白人の方が、**Location** 側には黒人の方が多いです。これは、ドイツによる植民地時代の住み分け(黒人が郊外に追いやられた)とその後の南アフリカによるアパルトヘイト(人種隔離政策)が影響していると考えられます。

現在は互いに確執があるかということ、自分の目を通した限りではそのようには感じません。しかし、凄惨な歴史の中で繰り返されたナミビアの人々の犠牲とたゆみない努力の結果が今のこの生活に繋がっていることは心に留めておかなければなりません。もし旅行にいらっしゃる際は、ナミビアの歴史について事前に勉強してからお越しいただくと、より現地の方々のお話が分かると思います。

ちなみに、ほぼすべてのどの都市にも中国人が住んでおり、中華ショップがあります。そのため中華の食材なら比較的容易に手に入れることができます。

最後に、写真5は町全体を見渡せる、お気に入りの場所の1つから撮ったものです♪

次回：自分の配属先と簡単にナミビアの教育制度について紹介します！